

# 天文教育

2023

5

*Publications of the Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy  
(PJSEPA)*



〈特集〉東北支部研究会／中部支部研究集会／関東支部会

〈連載〉Mitaka カスタマイズの手引き (1)

〈投稿〉探索型クイズゲーム「SPACE-CISTE」／奄美与論島における  
二十三日待ち／アステリズムの変遷と多様性 (1)

〈書評〉ビジュアル天文学史：古代から現在まで 101 の発明発見と挑戦

〈報告〉天文教育フォーラム報告

一般社団法人 日本天文教育普及研究会

## 本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます（共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願いいたします）。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主要内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト（要旨）には英文も付けてください（英文は審査通過後に追加可）。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで6～10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで2～4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1～2ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただきます場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

- ・ **締め切り**：1は随時受け付け、2～7は偶数月（発行の前月）15日です。投稿先は [post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net) です。
- ・ 本誌に掲載された記事（上記1～6および7の一部）は、当会 Web サイトにて pdf ファイルの形で一般に公開いたします。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。
- ・ **広告掲載**を希望される方は事務局 ([jimu@tenkyo.net](mailto:jimu@tenkyo.net)) までお申込みください。掲載料は B5 判 1 ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4 ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

### 【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・ 原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・ 執筆用のテンプレートが当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・ 十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいたたく場合もあります。
- ・ 提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・ Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・ 原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：[post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net)

## 表紙の言葉

### 奥能登、地球の鼓動と人の暮らし

2023年5月3日 03h34m, Canon EOS R5, AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED (35 mm, F=2.8), ISO4000, 13秒露出  
撮影地：石川県珠洲市宝立町鶴飼 撮影者：大西浩次

石川県能登（珠洲市）で、2023年5月5日14時42分頃、震度6強、同日21時58分頃震度5強の地震が起きた。奥能登で2020年から起きていた群発地震の中でも最大級の地震であった。この地震の直前、偶然、奥能登の旅をしていた。一つに、パーシヴァル・ローウェル（Percival Lowell）の能登での碑石をめぐることで、そして、著書『NOTO・能登・人に知られぬ日本の辺境』の場所を巡ることにあった。急に思い立ったこともあり、空いていた宿は見附島の近くしかなかった。宿泊した夜は意外と好天で、夜明けの見附島（通称、軍艦島）と昇る天の川を見ることができた。月が沈む直前、富山湾越しに見える北アルプスを背景に赤く染まる見附島と、そ

の上に昇る土星、秋の代表的な「三ツ矢」のマーク（みずがめ座）が昇っていた。見附島の左下には、昨年6月の震度6弱の地震で崩れ落ちた木々が倒れていた。大地の変動を短時間で示す光景であった。この撮影の直後に起きた大きな地震の影響で、この軍艦島の船先の左右が再び崩れてしまった。1993年2月の能登沖地震で島の上の神社が崩落、2007年3月の能登半島地震でも被害がでている。2022年6月でも船先が大きく崩れた。あの軍艦島の形は、まさに、そのような地震と断層に関係しているに違いない。この美しい里山・里海の光景が、まさに、大地の鼓動の中で作られてきたのであろう。その恵みの中で、人々は稲作や漁で生活している。今回の地震で能登半島の北端（狼煙）は20cm近い隆起が観察されている。大地が隆起し風雨が削られる。この美しい里山・里海の中で暮らす人々に、安全と復興を心から祈念します。